

感染性胃腸炎(ロタウイルス)による集団発生について

平成 25 年6月11日沖縄県福祉保健部健康推進課によりますと、 垣市内の保育施設でロタウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が止まらない状況にあります。6月13日の沖縄タイムス p5. 社説(下記)をお読みください。

記

計19保育施設で、患者は計182人(保育士1人含む)に上る。県内では過去に例がない規模の集団感染である。重症化し、入院した子どもも出ているが、全員、快方に向かっているのは幸いだ。

汚染された食品を食べたり、患者の便や嘔吐(おうと)物などに触れたりして広がっていく。感染すれば激しい嘔吐や米のとぎ汁のような下痢を繰り返す。脱水症や脳炎・脳症を引き起こし、後遺症となることがある。油断は禁物だ。

多くの乳幼児らが互いに接触しながら生活を共にする保育施設は集団感染の危険性と背中合わせだ。

排便後の子どもの手洗いを徹底し、職員は汚物処理に使い捨て手袋で当たるなどの防止策が求められる。消毒用アルコールは効かず、塩素系漂白剤が有効だ。

5歳までにほぼ全員がロタウイルスにかかるとされるが、初めての感染で重症化する傾向がある。免疫がないためだ。治療薬はなく、脱水を防ぐため、こまめに水分補給をしなければならない。

気になるのは、感染していることがわかりながら子どもを預ける共働きの親がいる、と保育施設側が石垣市の調査に回答していることだ。感染を拡大させかねない。

自宅で子どもの体調を回復させてから、登園させるべきだが、その間、親が付き添わなければならない。職場の協力が不可欠だ。

石垣市の感染経路はまだ不明である。感染の拡大を阻止するためにも八重山福祉保健所には特定を急いでほしい。

■ ■

ロタウイルスのワクチン接種は世界保健機関(WHO)が推奨している。国内でも2011年に接種できるようになった。ただ「任意接種」のため全額自己負担である。

金武町の試みに注目したい。同町は4月から県内で初めて公費による助成を始めた。1人当たり接種金額の約75%を町が負担する。約230万円を本年度一般会計予算に計上。乳幼児の約9割、約110人をカバーする。

担当者によると、町内では毎年、ロタウイルスに感染した乳幼児のうち、約1割が入院している。保護者や医療機関から助成を要望する声が高まり、町が応えた。

接種で患者が減少すれば、医療費の抑制につながる。自治体によって乳幼児数など条件が違うはずだが、他市町村も公費負担による接種を検討してもいいのではないか。

■ ■

県感染症情報センターによると、ロタウイルスを含む感染性胃腸炎の患者数は、八重山福祉保健所管内では第20週(5月13日～19日)に1定点医療機関当たり21人となり、警報レベルの20人を突破した。前週の実に14倍、この時期に急増したことがわかる。

最新の第22週(5月27日～6月2日)になっても依然として18人で推移しており、警戒を続けなければならない。

ロタウイルス感染は全県で散発的に発生している。集団感染の恐れは県内どこでもある。予防には、徹底した衛生管理が必要だ。

<ロタウイルスについて>

感染経路:主に人から人との間で起こる糞口感染(糞便に接触しかつ飲水前の処理が不十分である場合や糞便に触れた食物、不十分な汚水処理、糞便接触後の不十分な洗浄などにより糞口経路は成立する。)が主な感染ルートとして考えられています。ロタウイルスは、環境中でも安定なため、汚染された水や食物などからウイルスが経口感染(病原体が口を通過して消化管から侵入するような感染の仕方)する可能性もあります。

潜伏期間:1～3日(病原体に感染してから、体に症状が出るまでの期間のこと。病原体の種類によって異なる。)

症状:突然の嘔吐、発熱、下痢(米のとぎ汁のような白っぽい便)など。

※大人はかかっても軽症ですが、患者の大多数は5歳未満の乳幼児であり、生後4か月～2歳くらいの乳児が感染すると、重い下痢による脱水や、時に脳炎や脳症など重症になることがありますので注意が必要です。

予防対策:1. 食事の前、トイレの後、オムツの交換などに石鹼と流水でよく手を洗いましょう。

手洗いの方法:泡たてた石鹼でよく手をこすり、十分な流水で15秒以上流し、清潔なタオル、

ペーパーなどで乾燥させる。

感染拡大防止対策:1. 下痢などの症状がみられる時の入浴は、できるだけ浴槽に入らず、かけ湯かシャワーですませる。

2. バスタオルや手拭タオルは共有せず、個別のものとする。

裏紙:参考資料「保育園における感染症の手引書2010 Ver.2」p24～25